

杉本紀一郎

陶芸 不銜窯



Sugimoto Kiichiro

秋田の風土が持つ豊かさ・優しさ・素朴さ等を器に表現したいと思っております。表現の方法として私は釉薬を主体に考えます。私が使う釉薬の原料は秋田杉やブナの灰・秋田こまちの籾殻の灰等、天然素材が主な物です。これ等の草木はその成長の軌跡を灰の中に残します。それぞれの草木が土中から吸い上げた多くのミネラル分は窯の中で高温の炎と出会って美しく発色します。秋田こまちの籾殻灰は白い色に変化します。秋田杉の灰は緑色・黄色・青色・茶色など種々に変化します。その現れ方は釉材の育った土質や焼成方法・使用粘土等により異なります。美しく豊かな郷土秋田の自然の中で、秋田らしい器を創るべく精進したいと思っております。

※日本民芸協会会員／秋田市工芸振興協議会会員

昭和38年 3月 明治大学 文学部 史学地理学科卒業
平成 8年 7月 角館焼窯元 小松幸次郎・進両先生に師事
平成10年12月 伊万理ポリテクセンター 陶磁器科 修了
平成11年～ 旧大曲市ペアーレ陶芸講師を始め、
平成23年 秋田テルサ・御所野学院社会人講師を経験
平成14年 4月 河辺和田式田(現在地)に不銜窯を築窯

